

# 社会人として求められる資質能力に関する自信尺度の検討 ：特にインターンシップ実習前後の比較を通して

岩本 楓 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 南島 永衣子

キーワード：インターンシップ実習，資質能力，自信尺度

## 1. 緒言

インターンシップ実習とは，学生が在学中に，企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した職業体験を行うことをいう（文部科学省，2007）。

学生は，インターンシップ実習を通し，各学部の専門分野で学んだ知識に対する理解を深めている。異年齢の人々と関わりながら職場体験をすることは，学生の社会人としての資質能力に対する自信を向上させる。しかしながら，インターンシップ実習を終え，自身の職業に対する適性に迷いを感じ，自信を喪失する学生も少なからず存在する（中川，2009）。インターンシップ実習によって，自信を深める学生がいる一方で，それらを低下させる学生もいるということは事実である。つまり，学生は，インターンシップ実習を通し，多くの経験や多くのことを学び，それが自信に繋がると考えられる。したがって，インターンシップ実習では，社会人としての資質能力を向上させ，実習における学びの内容とその影響について，より詳細に検討することが必要であると考えられる。

そこで本調査は，インターンシップ実習を必修科目として位置づけているB大学の学生を対象に，社会人として求められる資質能力に関する検討を行うことを目的とし，また，そのような変化を生じさせた要因を分析することとした。

## 2. 研究方法

B大学の3年生を対象に今年度インターンシップ実習を行った男女37名を無作為に抽出し，実習前後における2回アンケート調査を実施した。分析方法としては，IBM SPSS Statistics 19を使用し，対応のあるt検定を行った。

## 3. 結果と考察

表1は，インターンシップ実習前後での全体の因子別自信尺度を表している。

第1因子では，実習前30.81に対し実習後では14.81となっており， $t=8.864^{***}$ と統計的に有意に下がっている。第2因子では，実習前13.94に対し実習後では16.65となっており， $t=-10.066^{***}$ である。第3因子では，実習前14.43に対し実習後では17.03となっており， $t=-8.991^{***}$ である。第4因子では，実習前12.11に対し実習後では13.46となっており， $t=-5.795^{***}$ となっており，第2～4因子は統計的に有意に上がっている。

今回のインターンシップ実習で全ての因子に有意差が見られた。

	実習前		実習後		t値
	M	SD	M	SD	
実践的指導力	30.81	10.458	14.81	2.413	8.864 ***
自発的行動力	13.94	2.254	16.65	2.137	-10.066 ***
対人関係能力	14.43	2.049	17.03	1.993	-8.991 ***
真面目さ	12.11	2.025	13.46	1.556	-5.795 ***

P<0.05\*P<0.01\*\*P<0.001\*\*\*

## 4. まとめ

今回の研究では，インターンシップ実習に参加することによって，学生は自信をつけて実習を終えることができた。現場に出ることにより今までとは違い視野が大き

く広がり、社会人としての自覚と責任が生まれ、自らが自主的・自発的行動へと移し、社会人としての資質能力が付き、大きな自信へと繋がることがわかった。